

学会記事

2008年度 第1回理事会 議事録

2008年6月20日
日本地質学会
会長 宮下純夫

期日：2008年6月14日(土)

13:00~16:00

場所：地質学会事務局

出席者：宮下会長、佃副会長、高木副会長、
渡部常務理事・藤本副常務理事・井龍・岩
森・上砂・倉本・斎藤・坂口・久田・向
山・藤林(各理事)、橋辺(事務局)

欠席者：小嶋・矢島・石渡

*成立員数(12/17)に対し、出席者 14名、
委任状 3名、欠席者 0名で、理事会は
成立。

報告

1. 運営財政部会(部会長-上砂, 向山, 倉
本, 坂口)

総務委員会(委員長-上砂)

・尾瀬保護財団より第12回尾瀬賞の公募あ
り(応募期間4/1-10/31):news誌, HP
に掲載

・21世紀の地学教育を考える大阪フォー
ラム実行委員会より「第9回子供のための
ジオカーニバル」の後援依頼があり例年
通り承諾した。

・地盤工学会会長交代挨拶:新会長 浅岡
顕

・土木学会会長交代挨拶:新会長 栢原英
郎

・韓国のIYPE委員会よりIYPE日本委員
会にたいし、韓国の科学フェスティバル
(7月31日~8月4日)に日本の学生の
招待があった。地質学会からも推薦す
るよう要請があり、代議員等のメールを
通じて全国的に推薦を呼びかけた。その
結果、高木副会長(引率者としても要請
あり)からの推薦をはじめ、国内から地
球科学関連の学生が合計5名推薦され
た。高木副会長の引率はIYPE日本委員
会からの要請である事を確認した。

・学術会議に対し、文部科学省(高等教
育局)から「大学教育の分野別質保障の
あり方に関する審議について(依頼)」の
文書が送付された。中教審は学士課程
教育に関する審議の取りまとめにおい
て、将来の分野別評価の実施を視野に
入れ、各分野の到達目標の設定、コア
・カリキュラムやモデル教材の開発促進
等について提言を行っている。学協会
においても主体的な取り組みの促進が
求められている。普及教育部会で検
討。連合を通じ

て議論が始まるかもしれない

・地理学会より国際地理オリンピックへの
支援依頼(寄付金募集)→回覧

会員関係(担当理事-向山)

1) 入会者 20件(賛助1, 正17〔うち
10〕, 準2)

(賛助1) 興亜開発株

(正7) Humblet Marc Andre 鈴木和博
田中正利 橋目敏行 小野寺秀和 品川道
夫 林 為人

(院10) 濱田洋平 和気夏彦 伊藤 剛
松澤 希 石橋正祐紀 井元 恒 菅原久
誠 安田知佳 山口真理子 薬師寺亜衣
(準2) 宮坂 綾 滝本春南

2) 退会者(正4名)

松本啓作 山本俊雄 須甲武志 鳥口能誠
3) 逝去者(正1名)

村山正郎(2008/6/4逝去)

4) 5月末日会員数

賛助32, 名譽80, 正4,239(うち院168),
準21, 合計4,372(前年同期比-93)

5) 会員からのアクセスによる個人情報
の登録、修正ができる準備が概ね整い、試
験運用の後、会員公開をしたい、準備中。
ウェブ上の変更は定期的に事務局が基本
のDBを更新する。

広報委員会(担当理事-倉本=情報特任・
坂口)

・インターネット運営小委員会

会員からのアクセスによる個人情報の登
録、修正ができる準備が概ね整い、試験
運用の後会員公開をしたい、準備中。
ウェブ上の変更は定期的に事務局が基本
のDBを更新する。メルマガ等は順調に
進行。地質の日のイベントの報告を地質
ニュースと連携をとりつつ行う。公益法
人化との関連で、ニュース誌の公開など
を検討したらどうか

2. 学術研究部会(部会長-石渡)

行事委員会(担当理事・委員長-斎藤)

・秋田大会について

秋田県教育委員会および秋田市教育委員
会に対し秋田大会の後援を依頼した。県
および市からは承諾の返答あり。

見学旅行案内書の印刷について、担当の
大友会員より見積り額は昨年の札幌大会
並みに押さえるよう交渉の結果、山形の
印刷所に発注。

・7月12日(土)、プログラム編成のため
の行事委員会を開催予定。

・予定されている日韓のシンポと韓国地質
学会会長の招待日程を調整

・秋田大会において、鉱物学会との共同
で科研費申請者に対する技術的説明会を

行う。

専門部会連絡委員会(担当理事-藤本)

今後会員情報の登録修正同様、ウェブ上
での部会登録が可能になるので会員にはこ
の事を周知し、登録の結果は各部会に通
知する。

国際交流委員会(担当理事-石渡=国際特
任理事)

・日韓交流小委員会(高木委員長):韓国
地質学会会長を秋田大会に招待する件に
ついて

2泊3日の日程、交通費・宿泊費の費用
的負担は、地質学会が負う。

予算:10万円程度 秋田往復(直行便あり)
航空運賃+2泊宿泊費

・日タイ交流委員会(上野委員長):発足
の報告、今後予想される活動については
国際会議、シンポジウム等の情報宣伝、
日タイの共同研究に関する情報収集と発
信、年会等でのタイおよび周辺地域に関
するセッションの主催などがあげられ
る。

・地球惑星連合国際委員会報告
AOGS2010が日本で開催されるかどうか
は6月18日に決定

3. 編集出版部会(部会長-久田, 小嶋, 岩
森, 井龍)

地質学雑誌編集委員会(委員長-久田 副
委員長-小嶋, 岩森=企画担当)

今月の編集状況(6月12日現在)。

114-6月号:論説3 短報1(51頁予定。
校正中)

114-7月号:論説3 ノート1 討論2
口絵1(入稿準備中)

2008年度度投稿論文総数60編[論説41
(和文39 欧文2), 総説10(和文10) 短
報3, 討論2 報告3 ノート1]口絵
1

投稿数昨年比 +24 査読中63編 受理
済み5編(うち 論説5

・特集号の状況

下記5件の特集号が査読・投稿中

「最終氷期の環境変動-日本列島陸域
と周辺海域の統合を目指して-」(世話
人 公文富士夫ほか)

「プレート沈み込み帯と地震」(世話
人 廣野哲朗ほか)

「日本海沿岸褶曲・断層帯の形成・成長
と地震活動」(世話人 高木秀雄ほか)

「陥没カルデラ(I):構造とマグマ」
(世話人 三浦大助)

「モデル実験で探る地形・地層形成過程
のダイナミクス」(世話人横川美和ほか)

投稿中

・オーバーページが予想されるので、

オープンファイルなどの利用も検討
・編集委員強化(新生代火山活動の専門)
→編集委員会で決定後報告

企画部会報告(岩森)

地質学雑誌のISIデータベースへの登録申請について

- ・引用文献リストの英文化が望ましいとされている。申請して必要ならば変更申請の原案を編集委員会で作成
- ・英文要旨のネイティブチェック義務化は編集委員会で検討すべき
- ・地質学雑誌での、「調査報告」のカテゴリ化について
検討事項としては、既存の「報告」との切り分け、「調査報告」の主用途、ニュース誌への掲載の可能性等について
- ・地学の教員が書けるような形を整える編集委員会で規約を検討 地学教育委員会と協議
- ・地質学会の投稿が学会員に限られていることについて、公益法人化との関係で今後の検討課題となるのではないか。

Island arc編集委員会(担当理事-井龍, 事務局長-竹内圭史・角替敏昭)

1) 編集状況

順調に進行, 特集が多いがインパクトファクター向上も考慮してなるべく受け入れる方向で検討

2) Blackwellの電子投稿システム(Manuscript Central)に不具合が発生しており, 編集に若干の遅れが生じている。

3) WILEY-BLACKWELL誕生に伴い, 2009年1月より新 ジャーナルプラットフォームが設定される。その準備として, BLACKWELL ジャーナルサイト Synergyに収録されているジャーナルのプラットフォームが, 2008年7月より Wiley InterScienceに移行される。移行作業中(6月28日~30日)には, SynergyとInterScienceへのアクセスが一時的に中断される可能性もある。

4) Wiley-Blackwellとの契約内容の変更を行っている(この件は, 前編集委員長のSimon Wallis氏が担当する)。オンラインアクセスの契約数に関して, 交渉すべき点がある。

Island arc連絡調整委員会(委員長-会田, 担当理事-井龍)

- ・先月理事会の検討を受けて, 会田委員長からも同意が得られ, 本委員会は本日の理事会をもって解散することが了承された。

企画出版委員会(担当理事-藤林)

・地方地質誌(加藤委員長, 朝倉書店)の編集・出版状況は「関東地方」が秋田大

会を目指して出版される見込み, 「近畿地方」は年末を目指している。秋田で出版推進のための委員会を開催予定。

・リーフレットたんけんシリーズ「屋久島」(安間, 矢島, 藤本ほか)は現在原稿作成中, 秋田大会前の完成を目指して努力。

- 4. 普及教育事業部会(部会長-矢島, 藤林) 国際地学オリンピック日本委員会(久田)
 - ・5月31日の第二次選抜試験を経て, 最優秀賞4名(フィリピンへの派遣代表), 優秀賞2名(同 補欠)を選出。(資料参照p.6)
 - ・地質学会推薦の小泉邦彦会員(柏高校)が運営委員に就任
 - ・今後, 地学オリンピックに関しては, 地質学会のHP, ニュース誌でも取り上げ, 紹介してゆきたい

5. その他

支部長連絡会議(担当理事-高木)
支部長連絡会議を招集予定(法人化の具体的説明と協力要請)

地質災害委員会(担当理事-藤本)
ミャンマーと中国四川の自然災害への対応についてメールにて検討。

JABEE委員会(委員長-天野)
今年度の審査作業が開始された。

技術者継続教育委員会(PDE)(委員長-公文)

ジオパーク支援委員会(担当理事-佃, 天野委員長)

委員より意見を聴取中。近々それらをまとめた上で委員会開催予定。

・日本ジオパーク委員会(高木委員)
世界ジオパークネットワーク申請候補(7月1日締切)および日本ジオパーク(8月29日締切)の募集を6月12日づけで開始。くわしくは日本ジオパーク委員会HP <http://www.gsj.jp/jgc/indexJ.html>を参照されたい。

日本ジオパークは立候補した地域は基本的に認められる方向で検討。

世界ジオパークは日本から3-4件程度を推薦予定

就職支援ワーキンググループ(伊藤委員長)

・ニュース誌に関連職業の先輩による紹介記事掲載の準備中。

・秋田での就職支援プログラムの準備

法人化作業委員会(担当理事・委員長 渡部)

・斎藤法人化実行委員長の了承を得て, 正式に作業委員会を発足し, 第1回委員会を6/14に開催。

以下の二つの作業を並行して行う

9月の評議員会に定款案と事業計画案などを提示し, 了解を得ることを目標

12月1日に届け出を行う予定。(内閣府に登録),

11月29日臨時総会にて承認の上で解散,

直後に法人登記を行い, 引き続き設立総会を行う予定のために以下の二つの作業を並行して行う

1. 現在の事業計画や予算計画を整理し, 公益性が認められるような事業計画の作成と予算計画の策定: 担当 藤本, 向山, 倉本, 天野, 会計士, 弁護士, 司法書士
2. 定款などの届け出資料の作成。
定款, 運営細則, 選挙などの整備: 担当 渡部, 上砂, 坂口, 橋辺

7. 地質の日委員会(藤林委員)

・産総研「地質ニュース」の2009年1月号で今年度の地質の日の行事の記録を特集する。

○四川大地震, ミャンマーサイクロンへの学会の対応

- ・中国地質学会に対し見舞い状を送付し, 中国地質学会より答礼があった。
- ・理事会は5月25日の総会に「アジアで発生した大規模自然災害に関する緊急声明」を提案し採択された。
- ・上記について, 5月26日に文部科学省の記者クラブを通じ, プレスリリースを行った。

○審議事項

1. 地球惑星科学連合の法人化について(宮下会長)
先の連合評議員会で連合の法人化が決定した。

個人加盟制により小規模学会を中心に危機感が強く, 評議会ではそのような意見も多く出されたことが宮下会長より報告された。

地学教育関係者のセクションはどこなのか, 登録は適宜行い, 地学教育の常置委員会で活動してゆくことが出来る。

セクションの切り口は地質学会が分断される方向ではないか? などの意見が出された。連合と地質学会のミッションの関係は, 特に今後学会の法人化に際し, 公益目的事業ということでは, 連合との間で競合, 重複する部分が多くあることが伺える。

なお, 同, 法人化準備委員会への委員推薦依頼にたいし, 高木副会長を登録

2. 韓国地質学会会長への招待状, 公式行事の内容, 接待等について

初日の顕彰式で盾をプレゼント, 懇親会招待

日韓シンポでは(二日目の午前)学術的スピーチを行っていただく, 世話人に了解済み。二日目に会長陣で昼食会またはディナーにご招待, スケジュールも含めた招待状は高木副会長から発送

3. ニュース誌およびインターネット運営小委員会の機能的組織編成について(坂口理事)

坂口理事より趣旨説明があり、委員会として新しい委員選出を行い、理事会に承認を得ることとした

4. その他

- 1) 「日本地質学会表彰」の英文（会員からの問い合わせに答えるために）

The Geological Society of Japan
Honorable Recognition

合わせて古藤文次郎賞の英文名も以下に修正.

The geological Society of Japan Koto Bunjiro Award

今後、地質学会表彰や功労賞の定義や顕彰対象についても検討することとした.

- 2) 矢島理事からの会員の所蔵文献等に関する提言について検討し、話題となった地質学雑誌寄贈の新聞記事などをニュース誌で紹介する記事を矢島理事に執筆していただくこととした.

崎達雄（元九大）

4) 6月末日会員数

賛助32, 名誉80, 正4,260（うち院182）,
準22, 合計4,394（前年同期比-74）

地球惑星科学連合（久田連絡委員）

○連合法人化準備委員会（高木委員）

・7月4日第1回委員会は開催された。高